

尽力

先日、教室でこんな姿がありました。床についていたシミを見つけ、自分からシミ取りをしていている子がいました。誰かに頼まれたわけではありません。

そのままにしている、その子自身が困るわけでもありません。それでも、床のシミに気づき、道具を持ってきて、黙々ときれいにしていていました。その姿を見ながら、「人のために動くって、こういうことなのかもしれないな」と思いました。

「人のために働く」と聞くと、自分の時間を削ったり、自分のやりたいことを我慢したり、どこか自分を犠牲にするようなイメージを持つことがあります。でも、実際はもっと小さく、もっと日常の中にあるものなのかもしれません。

困っている人がいたら、少し手を貸す。

誰かがやるだろうと思うことを、自分がやってみる。

みんなが気持ちよく過ごせるように、ほんの少し手を動かす。

昔から「徳を積む」という言葉がありますが、私は「今日は徳ポイントを1ポイント貯めた」くらいの感覚でもよいのではないかと考えています。私たち自身も、毎日たくさんの「誰かの力」を受け取りながら生活しています。着ている服も、使っている電気も、道路や電車も、学校という場所も、自分一人の力では成り立ちません。私たちが当たり前で過ごしている時間の裏側には、顔も名前も知らないたくさんの人の仕事があります。そう考えると、「人のために動く」というのは、大げさなことではなく、自分が受け取っているものを、少しだけ次の誰かへ渡していくことなのかもしれません。

最近、7年生の姿を見ていると、そんな場面が少しずつ増えてきました。

6年生に向けた強歩会の実行委員募集でも、その一つがありました。

自分たちでプレゼンを準備し、6年生に向けて、

「ぜひ、運営にチャレンジしよう！」

と、熱く、そして真剣に呼びかける姿がありました。

プレゼンをつくるには、当然時間もかかります。

誰かに任せてしまうこともできたはずですが。

それでも、自分たちが経験してきた強歩会を、次の学年にもつないでいこうと動いてくれました。

床のシミをきれいにすることと、強歩会の運営を次の学年へつなぐこと。

一見すると全く違う行動ですが、どちらにも共通していることがあります。

それは、自分のことだけではなく、少し周りへ目を向けていることです。

「自分が今、何をすると、この場所が少しよくなるだろう」

そんな視点を持ち始めていることに、7年生としての成長を感じています。

もちろん、いつも誰かのために動かなければならないわけではありません。自分のことで精一杯になる日もありますし、誰かに助けてもらう日があって当然です。だからこそ、余裕のある時に、自分が持っている力をほんの少し周りへ渡せたらいい。そして今度は、自分が困った時に、誰かから力をもらう。

そんな小さなやり取りの積み重ねで、クラスや学校の雰囲気はつくられていくのだと思います。

最近、7年生の中に、そんな「小さな1ポイント」が少しずつ増えてきました。

目立つ活躍だけではありません。

誰にも言われず床をきれいにすること。

自分の時間を少し使って、誰かのために準備をすること。

そうした何気ない行動の中にも、子どもたちの成長が表れています。

これからも、そんな小さな姿を見つけながら、「あの行動には、こんな価値があったな」と子どもたちと一緒に確かめていけたらと思っています。

